

令和3年度三田市高校生議会 質問書

【質問者】 7番 クラーク記念国際高等学校 三田キャンパス 1年

谷口 ななみ (たにぐち ななみ)

【担当課】 まちの再生部 環境共生室 環境創造課

【答弁予定者】

【質問事項】 動物との共存について

【質問内容】

7番 高校生議員のクラーク記念国際高等学校三田キャンパス1年の谷口 ななみです。私からは動物との共存についてお伺いします。

私の家の周りで、ある時子猫が排水溝に落ちてしまった事件がありました。幸いその子猫は親猫に助けられ、出てくることができたのですが、その時飼い主がいない猫が簡単に死んでしまう可能性があることに気づき、その猫たちも生きていられるような方法があると良いと思いました。

現在三田市では飼い主がいない猫を減らすための活動として、不妊去勢手術の補助や TNR 活動を支援する補助金拡充などのためのクラウドファンディングの募集・取り組みを行いました。しかし、補助が実施されたことも TNR 活動そのものの認知度も低いと感じています。私の学校の近くに保護猫カフェがありますが、その存在を知ったのも最近になってからで、里親を探す保護猫がいることもあまり知られていないことなのではないかと思いました。私自身もこれらのことは自分の興味で調べてから初めて知ったことで、飼い主がいない猫を減らすという点において、そして保護猫の家族を探すという目的において活動の認知度の低さは解決すべき課題だと考えます。

そこで、この対策として、SNS や広報誌を使って情報を届けられるようにすることを提案します。例えばラインのアカウントを作り、TNR 活動の詳細な情報や、今引き取ることでできる保護猫の情報を発信します。そうすることで、猫を飼いたいと考える人に保護猫という新しい選択肢を知ってもらうことができ、家族として生きていける猫が増えると思います。

また広報誌にも猫の情報を掲載することにより、インターネットを使わない人にも情報を届けることができると思います。

さらに私達学生が参加できる飼い主がいない猫や保護猫を題材とした作品募集を提案します。多彩な能力を持つ三田市の学生からポスター、動画制作、絵本など分野を問わず作品を

募集します。作品は広報誌に掲載したり、展示して観覧できるようにすれば、作品を作る人もそれを見る人も猫について考える機会になると思います。

以上のことにつきまして、市の考えをお聞かせください。

【答 弁 内 容】

谷口議員のご質問にお答えします。三田市における飼い主のいない猫の対策ですが、市内でTNR活動や地域猫活動を行っている複数のボランティア団体で構成する「さんだ猫の連絡協議会」の皆さんと相談しながら進めています。今年度開始した、不妊去勢手術に対する補助金制度も協議会のご意見を参考に制度を創設しました。この制度は「地域の複数の住民が協力して取り組む」ことに対して補助を行うものとし、TNR活動に取り組もうとする地域内の理解を得るための周知も実施することとしております。このように飼い主のいない猫への対策は、地域課題として地域の方が主体となって行う活動に対し、市は不妊去勢手術費用の支援やTNR活動を広く市民に周知する役割を担っております。

この補助金制度は申請が多く、数か月で予算額に達したことから、補助金を確保するため広くクラウドファンディングで寄附を募りました。その結果、市内外から目標の100万円を超えるご寄附をいただき、飼い主のいない猫に対する関心の高さを感じております。なお、いただいた寄附金は、全て不妊去勢手術費の補助金に活用させていただきます。

不妊去勢手術に対する補助金制度や、TNR活動そのものの認知度が低いというご指摘については、窓口などで飼い主のいない猫に対する相談があれば、補助金制度と合わせてTNR活動、地域猫活動に関するチラシを配布しておりますが、議員ご指摘のとおりこのチラシや広報誌だけでは不十分であり、SNS等多様なツールを活用した発信も検討したいと考えています。

なお、地域のボランティアの方が行うTNR活動や地域猫活動は、飼い主のいない猫を減らす活動であると同時に、動物愛護の観点からエサをあげるなど保護活動も行っているため「飼い主のいない猫を増やしていると見られて困惑している。」といったお話を伺うことがあります。市は、TNR活動や地域猫活動の主旨を市民の皆さんに充分理解されるよう啓発し、ボランティア活動がしやすいよう取り組んでいるところです。

次に里親の募集ですが、募集している団体等に対し猫の持ち込みが増えて対応しきれないなどの課題があると聞いていますので、市が里親募集の紹介を行う取り組みについては、慎重に検討する必要があると考えております。

最後に、飼い主のいない猫などを題材とした作品募集をしてはどうかというご提案ですが、市はこれまで市HPで啓発を行っておりますが、市内の学生から募集したポスターや動画などを活用することは飼い主のいない猫について考える機会を増やすことになると考えますので、実施方法などについて検討してまいりたいと考えていますのでよろしくお願いいたします。